

[特集]

2005年の展望

中国脅威論、そしてデフレ懸念一辺倒だった日本経済は、製造業を中心とした企業の収益性改善が鮮明になるにつれ、明るさが見え始めている。その原動力は、再認識された日本の「ものづくり」の強みであり、それと同時に、日本企業の組織能力の高さ、日本人が持っている「執念」、「信頼」、「愚直さ」といったものの良さが見直されている。

本号の特集では「2005年の展望」と題し、総論では企業を取り巻く環境が大きく変化するなかで、変化に対応した新しいルール作りに挑戦する視点を提示している。さらに、日本の産業の競争力はどこにあるのか、グローバル経済の下でその強みを活かしていく方策は何かについて、「ものづくり」、「ひとづくり」の観点から考察を加えた。

C O N T E N T S

- 2005年は新しい秩序の幕開けの年
—古いルールを破って新しいルールを作ろう—
内田 和成 ……P4～P7
- 「ものづくり」
—日本の産業の競争力—
延岡健太郎 ……P8～P11
- 日本の産業の競争力を活かす「ひとづくり」とは
村橋 健司 ……P12～P15